

(単純集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和5年3月

<大山町>

目次

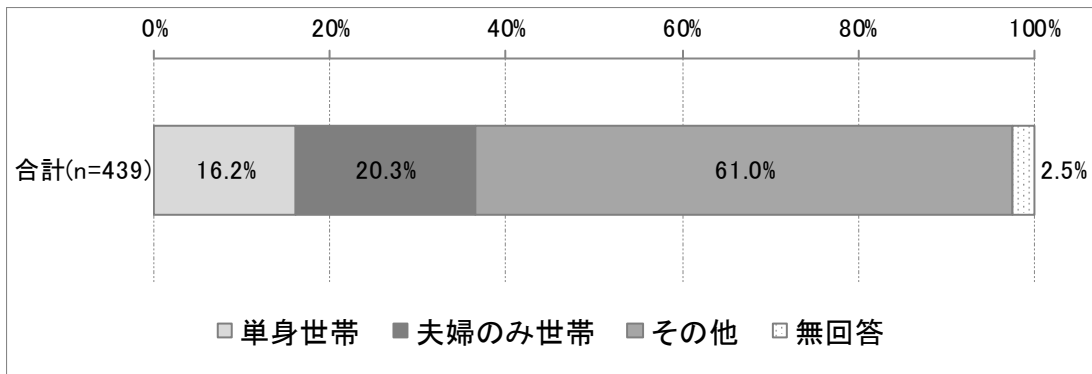
- 1 基本調査項目（A票） [P. 1]
 - (1) 世帯類型 [P. 1]
 - (2) 家族等による介護の頻度 [P. 1]
 - (3) 主な介護者の年齢 [P. 2]
 - (4) 介護のための離職の有無 [P. 2]
 - (5) 施設等検討の状況 [P. 3]
 - (6) 介護保険サービスの利用の有無 [P. 3]
- 2 主な介護者様用の調査項目（B票） [P. 4]
 - (1) 主な介護者の勤務形態 [P. 4]
 - (2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況 [P. 4]
 - (3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 [P. 5]
 - (4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護 [P. 5]
- 3 要介護認定データ [P. 6]
 - (1) 年齢 [P. 6]
 - (2) 性別 [P. 6]
 - (3) 二次判定結果（要介護度） [P. 6]
 - (4) サービス利用の組み合わせ [P. 7]
 - (5) 訪問系サービスの合計利用回数 [P. 7]
 - (6) 通所系サービスの合計利用回数 [P. 8]
 - (7) 短期系サービスの合計利用回数 [P. 8]
 - (8) 障害高齢者の日常生活自立度 [P. 9]
 - (9) 認知症高齢者の日常生活自立度 [P. 9]

1 基本調査項目（A票）

(1) 世帯類型

「その他」の割合が最も高く 61.0%となっている。次いで、「夫婦のみ世帯（20.3%）」、「単身世帯（16.2%）」となっている。

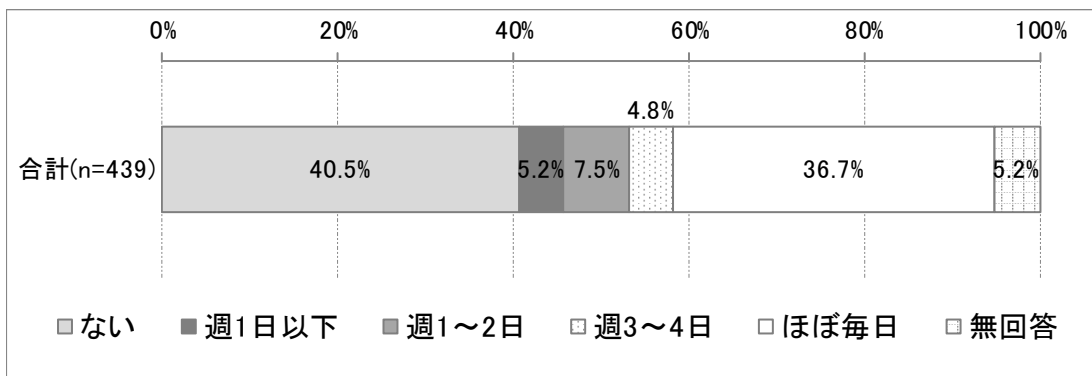
図表 1-1 世帯類型（単数回答）



(2) 家族等による介護の頻度

「ない」の割合が最も高く 40.5%となっている。次いで、「ほぼ毎日（36.7%）」、「週1～2日（7.5%）」となっている。

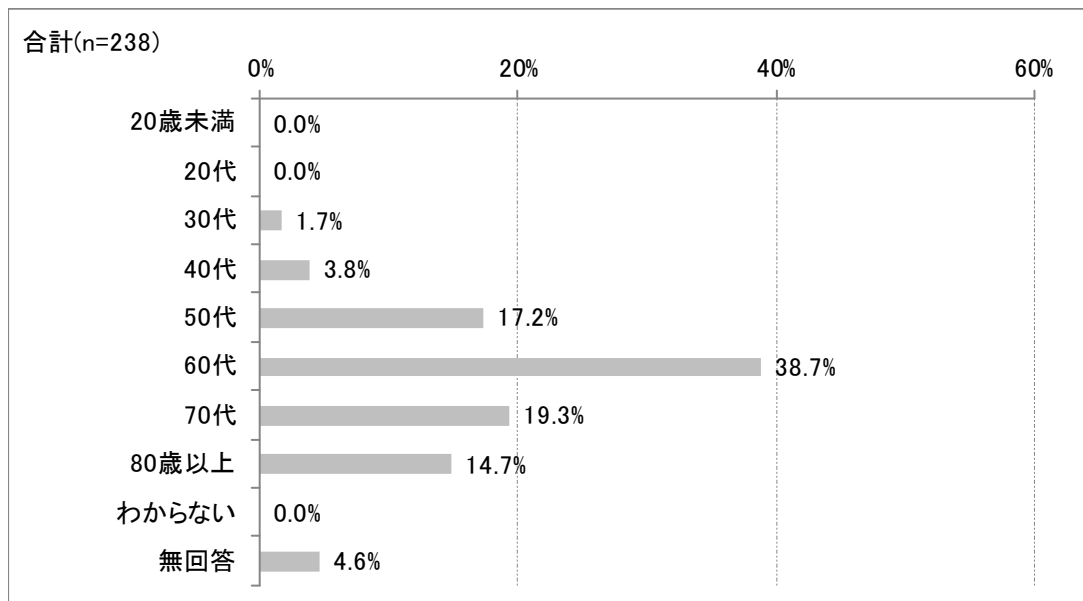
図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



(3) 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く38.7%となっている。次いで、「70代（19.3%）」、「50代（17.2%）」となっている。

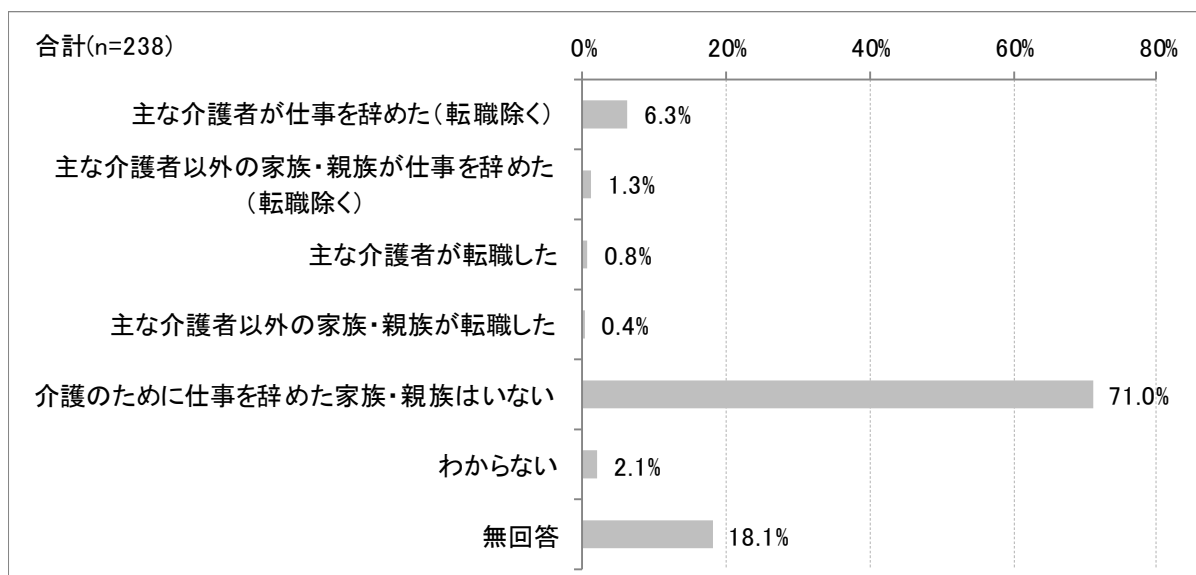
図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



(4) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く71.0%となっている。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）（6.3%）」、「わからない（2.1%）」となっている。

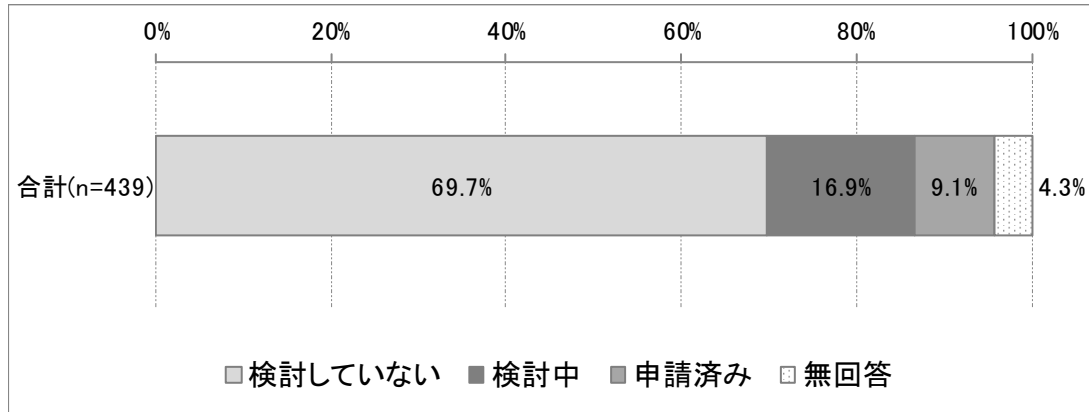
図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



(5) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く 69.7%となっている。次いで、「検討中（16.9）」、「申請済み（9.1）」となっている。

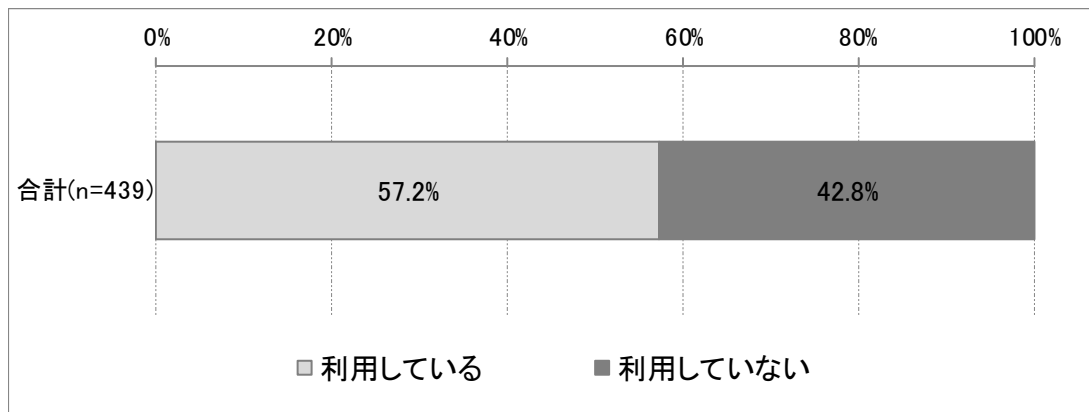
図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



(6) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く 57.2%となっている。次いで、「利用していない（42.8）」となっている。

図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）

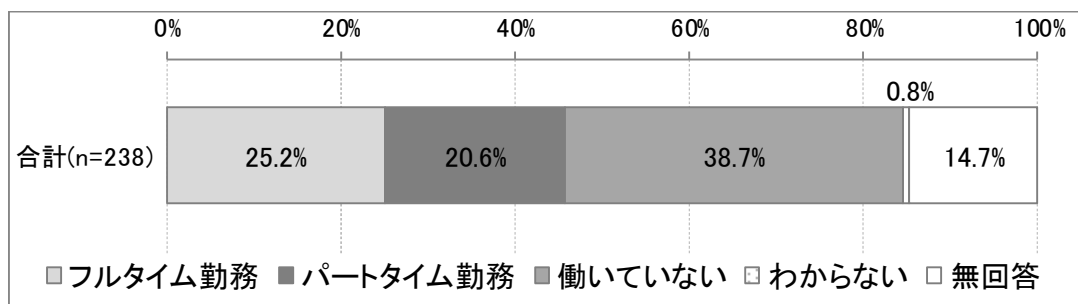


2 主な介護者様用の調査項目（B票）

(1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 38.7%となっている。次いで、「フルタイム勤務（25.2%）」、「パートタイム勤務（20.6%）」となっている。

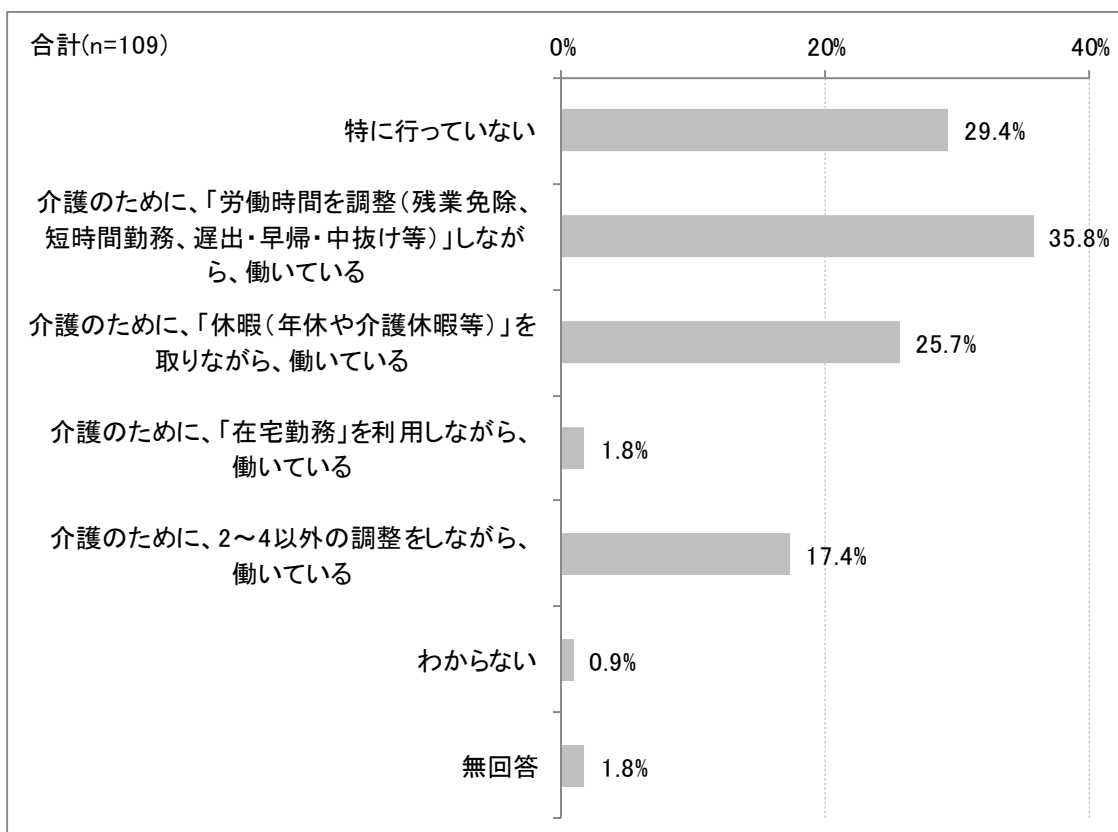
図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が最も高く 35.8%となっている。次いで、「特に行っていない（29.4%）」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている（25.7%）」となっている。

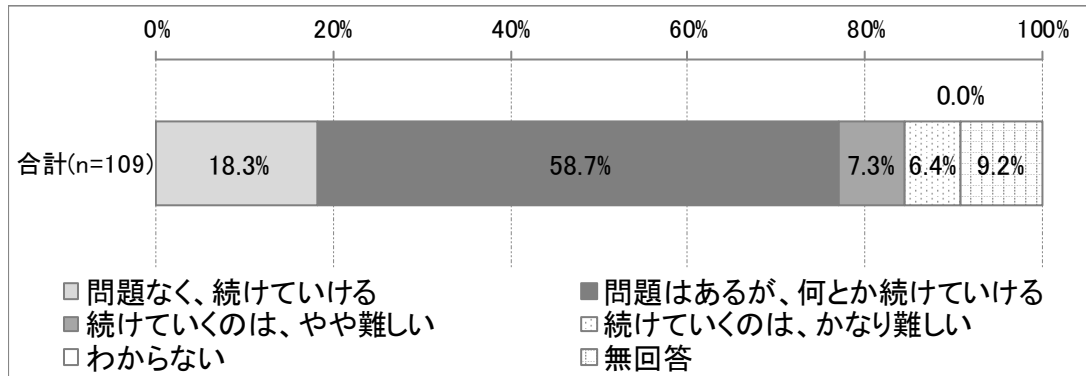
図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(3) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 58.7%となっている。次いで、「問題なく、続けていける (18.3%)」、「続けていくのは、やや難しい (7.3%)」となっている。

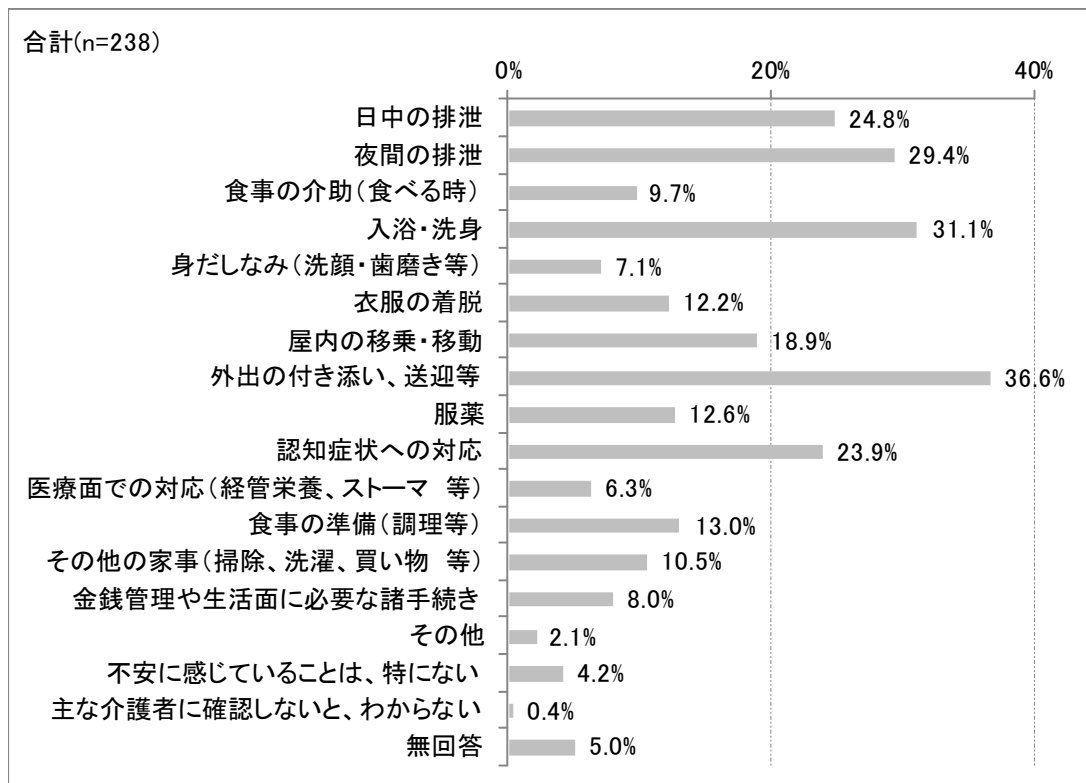
図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識 (単数回答)



(4) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護

「外出の付き添い、送迎等」の割合が最も高く 36.6%となっている。次いで、「入浴・洗身 (31.1%)」、「夜間の排泄 (29.4%)」となっている。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安を感じる介護 (複数回答)

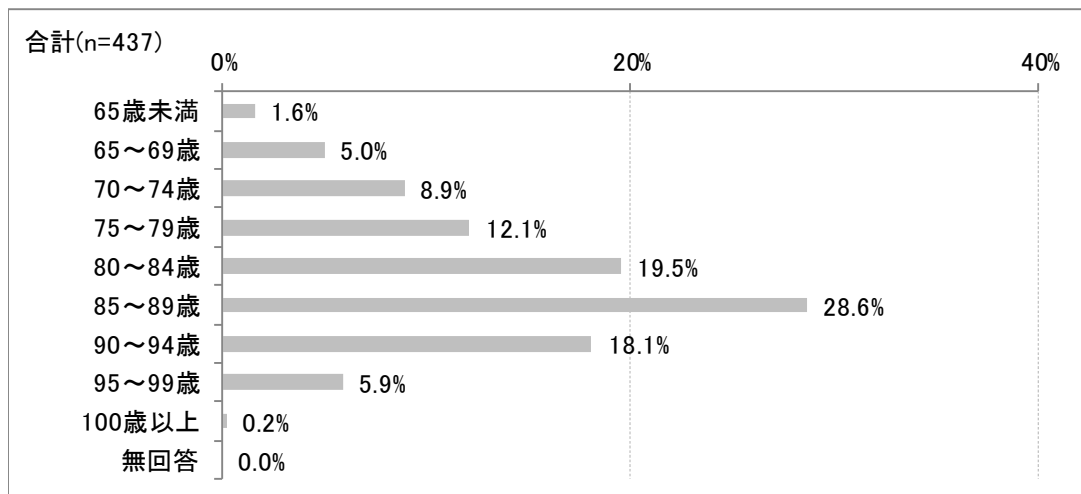


3 要介護認定データ

(1) 年齢

「85～89歳」の割合が最も高く28.6%となっている。次いで、「80～84歳（19.5%）」、「90～94歳（18.1%）」となっている。

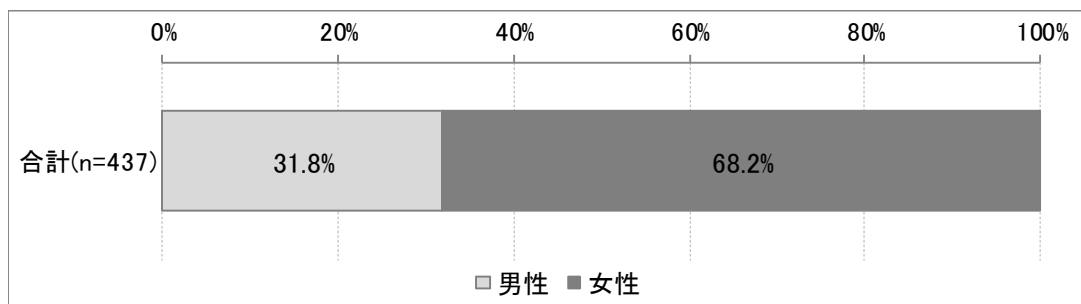
図表 3-1 年齢



(2) 性別

「女性」の割合が最も高く68.2%となっている。次いで、「男性（31.8%）」となっている。

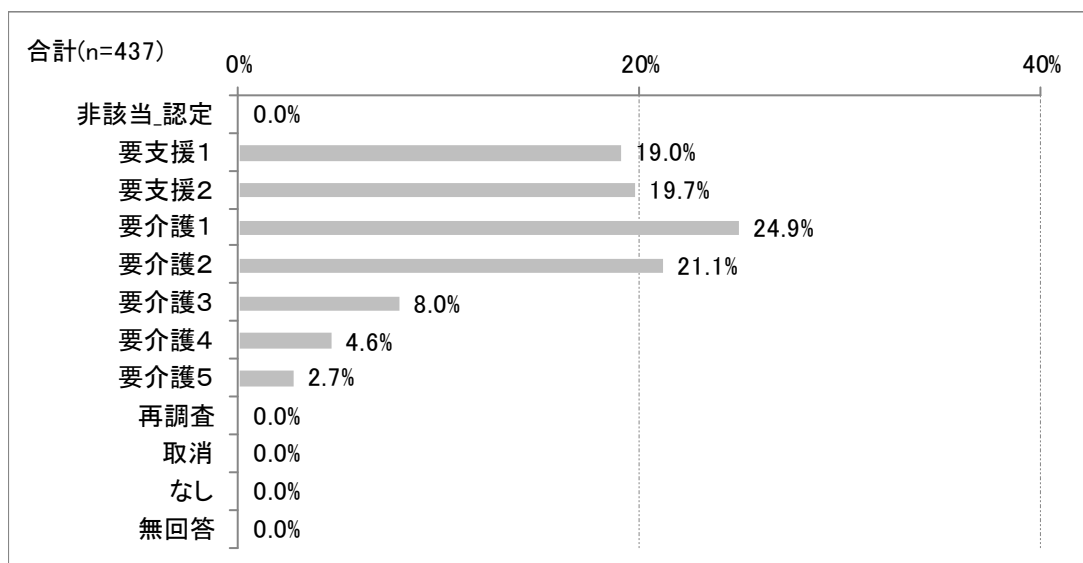
図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

「要介護1」の割合が最も高く24.9%となっている。次いで、「要介護2（21.1%）」、「要支援2（19.7%）」となっている。

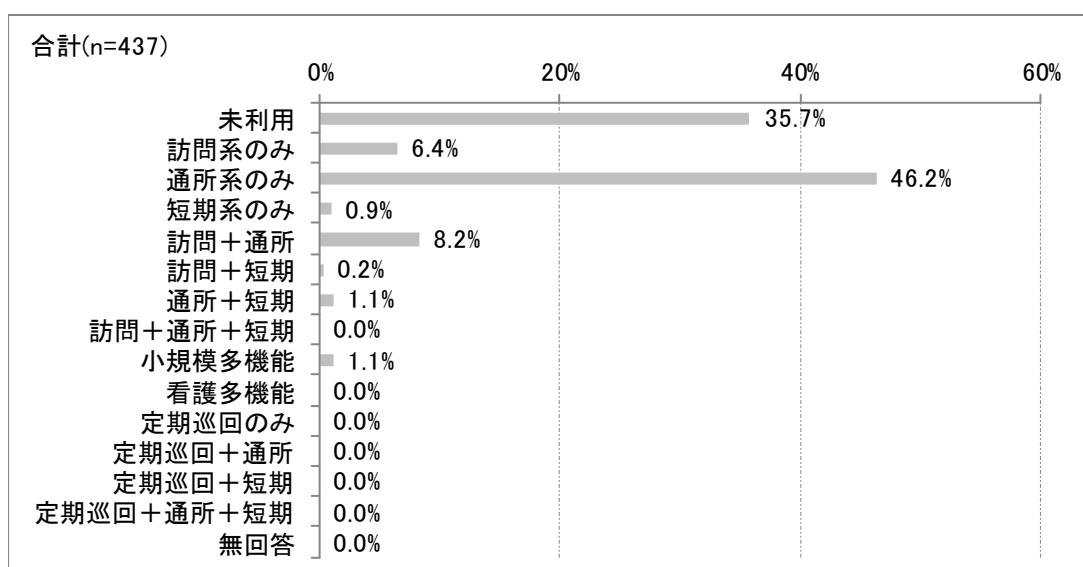
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く 46.2%となっている。次いで、「未利用 (35.7%)」、「訪問+通所 (8.2%)」となっている。

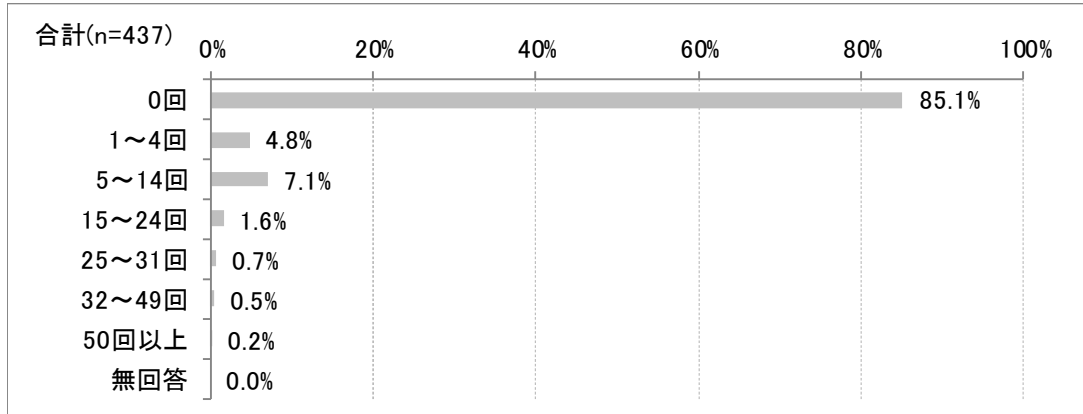
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く 85.1%となっている。次いで、「5~14回 (7.1%)」、「1~4回 (4.8%)」となっている。

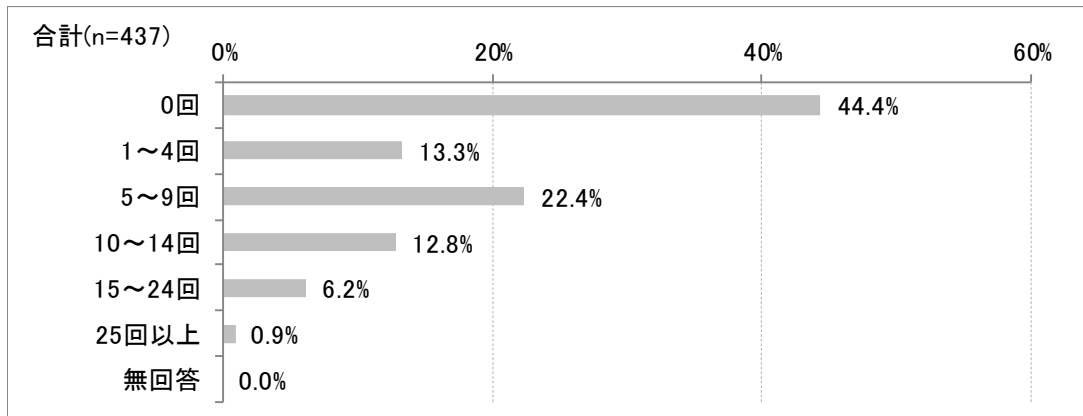
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く44.4%となっている。次いで、「5~9回（22.4%）」、「1~4回（13.3%）」となっている。

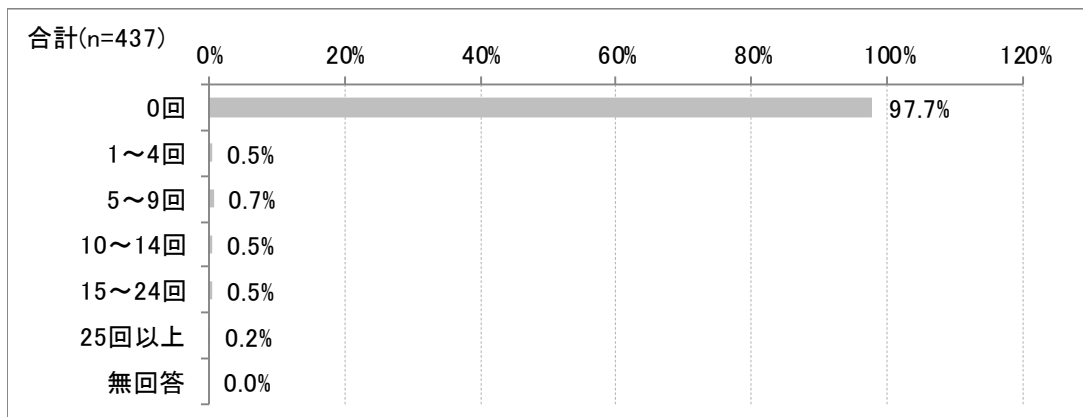
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く97.7%となっている。次いで、「5~9回（0.7%）」、「1~4回（0.5%）」、「10~14回（0.5%）」、「15~24回（0.5%）」となっている。

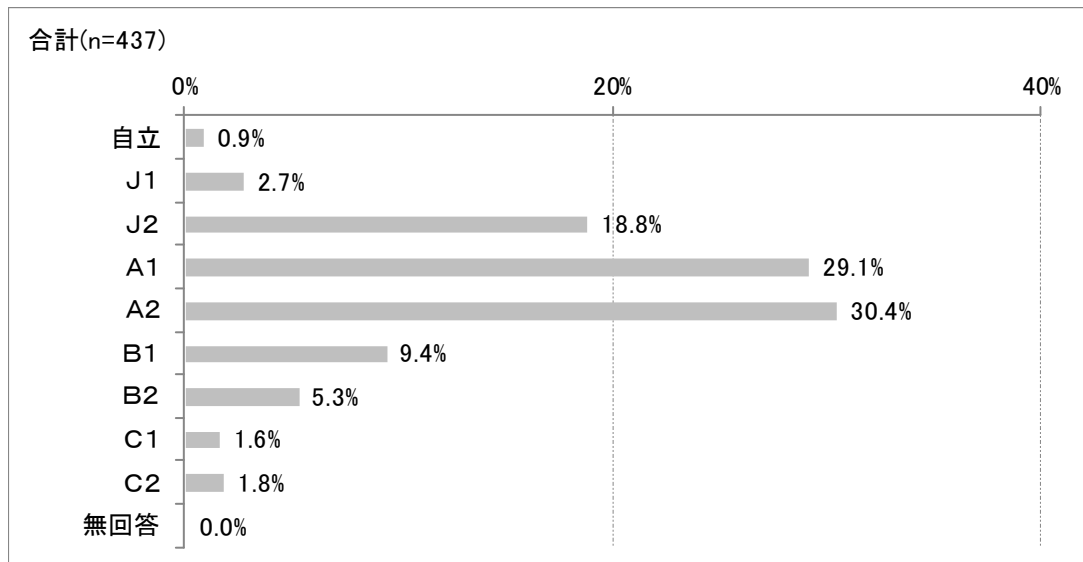
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「A2」の割合が最も高く30.4%となっている。次いで、「A1（29.1%）」、「J2（18.8%）」となっている。

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「I」の割合が最も高く35.9%となっている。次いで、「II a（22.0%）」、「II b（18.8%）」となっている。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

